平成 30 年度 第６回 知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】平成３１年１月１６日（水）
午後１時 30 分～３時 30 分
【会場】湖西市新居地域センター ３階ホール

１ 出席者

・ 発言者 湖西市において様々な分野で活躍中の方
６名（男性３名、女性３名）
・ 傍聴者 １６０人

２ 発言意見

番号	分野・所属	項　　目	頁
発言者１	農業	ＡＩを活用したきゅうりの仕分け	3
2	子育て支援	子育てサークルの運営	6
3	商業・地域振興	地域の人々が集まる場所としてのカフェの経営	11
4	スポーツ	ノルディック・ウォークの普及	12
5	製造業・商業	客の体型・体質に合ったセミオーダー洋服の製造・販売	18
6	製造業	国内初となるＧＰＳを利用した速度計の開発	20
傍聴者１	－	豊橋の焼却炉による煙害への対応	26
2	－	ＬＧＢＴへの配慮	27
3	－	災害発生に備えた資金の積立	28
4	－	「豊田佐吉は愛知生まれ」との首相発言への対応	28

【川勝知事】　皆様、こんにちは。今日は天気は良いですけれども、寒うございまして、会場にもマスクを召されている方もいらっしゃいますけれども、風邪を引かれないように、また特にインフルエンザにかからないように気をつけてくださいませ。

今日はここに湖西を代表する男性、女性、３人ずつ、すばらしい試みをされているというふうに伺いまして、それをお聞きして、またあるいは何か課題があって、こちらがお手伝いできることがあれば、しっかりお聞きして、それを県政あるいは湖西のためにも役立てたいということで参っております。

この広聴会というのは、こちらが広報するというのではなくて、広く聴くというものでございまして、そして聴きっぱなしにはしないというのが前提でございます。聴きっぱなしにしないで、必ずお役に立てるようにすると。ここでお答えできかねる難題もあるかもしれません。それは必ず持って帰りまして、それをこちらで後でお答え申し上げるというふうに、そういうふうにしてこれまで60回以上やってきました。

さて、この湖西は、ついこの間、ヘミングウェイカップが来年の夏に、これまで浜名湖のスポーツフィッシングフェスタですか、これがついにヘミングウェイの『老人と海』とか、映画になった『武器よさらば』とか、世界的な名前を冠したカジキ釣り、それがオリンピックの年の、オリンピックは８月からだったと思いますけれども、７月にここでやるんですよ。世界の目が浜名湖に集まるということですね。

それから市で、婚姻届、それから出生届の、かわいい、かわいい一生の思い出になるような、そういうのを作られましたね。ともかくそういう子育てに関わるいい仕事をされております。

さらに、裏のＱＲをクリックすれば、この湖西の情報が伝わるという湖西カードを出されておられると。

さらに、新居の関所が立派になって、来年オリンピックの聖火のルートを今最終段階になっていますけれども、宮城県からこちらに入ります。空から来るか、海から来るか、陸から来るかと。そして山梨県に持って行こうということです。山梨県に持って行かなくちゃいけないので、山梨県は東部の方から行く方が近いので、一番最初にこっちに持って来たいと思っているわけですよ。私の考えです。ここ西からずっと浜名湖を渡って東の方へ行けばいいんじゃないかと思っておりますが、この辺りがいいんじゃないですか。ただ、これは僕が決められないんです。決めるのは組織委員会です。

来年の夏辺りに最終ルートを決めると思っているんですけれども、是非。豊田佐吉翁が

生まれて151年目になられて、豊田佐吉翁を記念した奨学金も機能していて、今度湖西市にはその奨学金で立派に勉強して市役所に勤める方も入ったということで。こちらはまたものづくりのいわば聖地ですね。日本の生んだ世界的な企業のハートがここにあるということで、今度は何かバッテリーの会社もこちらに来るとか、それからサイクリングも浜名湖一周というのが楽しめるというので、今それの整備も進んでおりますし、いろんな意味で合併しなくて良かったですね。

ともかく浜松という大きな所と、豊橋や東三河と、その真ん中にあって、両方をつなぐという、そういう意味で湖西の個性が非常に際立ってきているんじゃないでしょうか。今政令市はいろんな意味で問題を抱えて、権限は大きいけれども、その権限を果たすだけの財源だとか、実力が伴わないというところも出てきております。そうした中で新居と一緒になった、それも今一生懸命一体感が進んでおりますけれども、これを追い風にして、世界の中に羽ばたく豊田佐吉さんが出た湖西ということで、いろんな意味での注目が集まるこれからの都市になるので、皆様方、健康に気をつけていただいて、日本に湖西ありと、そういう時代をひらいていただければというふうに思っております。

今日は２時間という長い時間でございますけれども、よろしくお願いを申し上げます。以上でございます。

【発言者１】　本日はこのような機会をいただきましてありがとうございます。先ほど紹介いただきました発言者１と申します。よろしくお願いします。座りながらしゃべらせていただきます。

私は白須賀地区で農家をやっております。両親２人と私の３人で、年間を通してキュウリ栽培をしております。畑の面積は0.4ヘクタールぐらいなので、いわゆる家族経営の小規模農家に当たるかと思います。

私は元々農業をやっていたわけではなく、つい５年ぐらい前までは自動車関連のシステムエンジニアをやっておりました。自動車の制御システムを設計したり、それを動かすためのプログラムを書いたりする仕事です。

そんな私がなぜ今農業をやっているかといいますと、理由は大きく３つあって、１つは、農家の長男だったからというのが一番大きな理由なんですけれども、農業就業年齢の高齢化というのが今問題になっていると思いますが、今大体農業をやっている人の平均は67歳ぐらいなんですよね。うちの両親も結構もう年になってきまして、やっぱり高齢になる

と、農作業自体がきつくなってくるというところで、私も家業の農業を継いで一緒にやるようになったというのがきっかけです。

２つ目の理由は、実際農業をやってみますと、結構農業は単純作業だとか言われるんですけれども、実はそうじゃなくて、農業の本質は、いかに自然と植物の恵みを社会的価値に変換するかということを考えていく仕事だということに気づきまして、非常に知的で、やりがいがある仕事だということに気づいたんですね。けれども、実際そうはいっても単純作業がたくさんあるというのは事実だと思います。

そこで３つ目の理由なんですけれども、実はこの単純作業は、今の最新のＡＩだとか、ＩｏＴといったテクノロジーや、私が今までやってきたプログラミングという技術を使うと、全て解決できるんじゃないかと私は考えています。

具体的に言いますと、今実際私はそういった技術を使って、キュウリの自動選別機というものを開発しています。詳しい資料を今日準備できなかったので、興味のある方はインターネットで「キュウリ」「ＡＩ」と検索をかけていただけると、詳しい写真だとか、動画だとかが出てくると思います。キュウリの選別作業は、大規模な産地だと機械化されて、ベルトコンベアが動いていたりするんですけれども、あれを個人農家が買おうとすると、到底買える値段ではないんですね。あれを動かすためだけに何十人もの作業員がついていないといけないというような問題があって、基本的に選別作業を全て手作業で行うというのが普通の個人農家さんだと思います。

その選別作業でどんなことをやっているかというと、キュウリの長さとか、太さとか、曲がり具合とか、あと色つやだとか、病気の有無だとか、いろんなパラメーターを見て、人間が総合的にそれを９つの等級に分けていくということをやっているんです。このいろんなパラメーターを見て分けるという作業が、今までは熟練者の経験によってやられる作業なので、なかなか覚えるのが難しいですし、私みたいに新しく農業を始めたような人がそれを覚えようとすると、技術を習得するまで結構時間がかかってしまう。

けれども、そもそも、時間をかけて習得した選別の技術なんですけれども、選別作業自体、時間をかけて頑張ったところで、例えば収穫量が増えるわけでもないし、キュウリの品質が上がるわけでもないんですね。売上げに全然直結しないところにたくさんの時間を費やしていることが一番の問題だと思って、私はそれをＡＩを使って改善しようと、今開発を個人で進めております。

最近ニュースとかで、ＡＩとか人工知能という言葉を聞くようになったとは思うんです

けれども、基本的にはこの数年でいわゆる技術的に革新が起こったのは、ディープラーニングという技術になります。いわゆるターミネーターとか、人型アンドロイドとかのＳＦの世界に出てくる人工知能とは別の技術で、統計学に基づく技術になります。

そのディープラーニングで何かできるのかと言うと、ざっくり簡単に言いますと、人間の認識判断をコンピューターでコピーできるということになります。私の場合ですと、キュウリの形を目で見て判断するというのをコンピューターに置き換えるということをやっています。

私が作った選別機を使いますと、大体誰でも、私の母と同じ選別の基準で仕分けすることができ、かつ作業効率で言うと大体 1.4 倍ぐらいの効率アップにつながるところまで今できています。

作業効率アップに貢献するというのもメリットなんですけれども、もう１つのメリットは、いわゆる技術継承です。今まで人から人に技術を伝えることしかできなかったものが、今はもう人がいないというのが、そもそもの問題になっています。人から人へではなくて、人から機械へ、機械から人へという形で、機械を挟むことで、技術継承をしていくことができるというところに私は非常にメリットがある、このＡＩの技術のすばらしいところだと思っています。

今日この会場にお集まりいただいた皆さんに是非知っていただきたいのは、こういった開発が個人レベルでも十分できるような時代になったということかなと思います。

私が作っている最新技術を使った選別機ですが、部品代だけで言えば大体２万円ぐらいで作れてしまいます。フレームや機材は、インターネットでネット通販を使えば、日本国内のみならず世界中から個人で調達することができます。私が使っているパソコンは、5,000 円で買った極めて簡素なタイプのパソコンですし、ＡＩの開発は全てオープンソース、つまり無料で公開されるソフトウェアを使って行っています。そういったいわゆるオープンなテクノロジーを活用することで、個人が直面している課題や問題を解決するものを個人で発明できるような時代になってきたということを是非知っていただきたいと思います。

最近は全国的にこういったいわゆる市民のものづくりを行うスペースや施設が、徐々にですが増えてきています。残念ながら私の近くにはないので、私は豊橋の施設を使っているんですけれども、そこには３Ｄプリンターや、レーザーカッター、プログラミングができるミシンが置いてあって、市民が、例えば自分のお店の看板をそこで作ったり、売るた

めのアクセサリーを作ったり、私みたいに個人の発明品を作ったりという、いわゆる市民のものづくりの場がそこに生まれていて、市民のものづくりの活動が生まれてきています。私は是非そういった活動の場がどんどん広がっていけばいいなと思っておりますし、そういった所から実は草の根的なイノベーションというものが生まれてくるんだと思っております。

あと、特に静岡県で言いますと、例えばお茶だとか、ミカンだとか、あと私の地域もそうなんですけれども、遠州灘に面した比較的温暖な気候を利用した野菜栽培というのが非常に盛んなんですね。それと同時に、浜松に代表されるように、工業とか製造業とかも盛んな地域でもあります。こういった静岡の産業構造を活かして、農業に、例えば工業の考え方や、最新のテクノロジーを混ぜたような、いわゆる次世代の農業を作り出していくことが重要なんじゃないかなと思っております。

特に、例えば今スマート農業で一番有名なのはオランダですよね。国内でどこが有名かというと、今まだない状態だと私は思っています。スマート農業、ＡＩ農業が最も盛んな地域は静岡県と言われるように、是非農業と最新テクノロジーの掛け合わせを盛り上げていきたいと思いますし、私自身も開発を今後とも頑張っていきたいと思っております。以上です。

【発言者２】　皆様、こんにちは。私は新居町で青空学級の地区リーダーをしております発言者２と申します。よろしくお願いいたします。

私には子供が３人おりまして、青空学級に入って、今年で６年目になりました。私は青空学級に入って、子育てをして、本当に良かったと思います。今日は青空学級がこれからもずっと続いていけるように、そのことについて話したいと思います。よろしくお願いいたします。

青空学級に入って６年目になったと先ほど申しましたが、その６年でも随分長かったなと思うんですけれども、実は青空学級はすごく歴史が長くて、発足は昭和 51 年の４月になります。つまり 40 年以上も、この湖西市新居町で子供を相手に活動を続けている集まりになります。

ゼロ歳から３歳の子供とその保護者、主に母親を対象とし、親子の居場所を提供するような集まりになっております。公民館を拠点とし、その地域の親子が活動しています。一般的な子育てサークルとは少し違っていて、それで先ほど親子の居場所をというような言

い方をしたんですけれども、サークルのように代表がいて、その運営などはずっと決まった人が行っていくというのではなく、会員の新加入と、そして卒業を繰り返し、活動計画を立て、実行していく役員は、その都度毎年メンバーの中から生まれるという形で行っています。

これは小学生の子供会の在り方にとても近いと思うんですけれども、地域の親たちによって青空学級はこれまで継続されてきました。青空学級の活動内容は、各学級の役員がそれぞれ計画するために、年度ごと、そして学級ごとに異なるのですが、七夕やクリスマス、節分や花祭りなどの季節の行事を行ったり、消防署や警察署など、個人ではなかなか行きにくい所にも見学に行ったりしております。

また、子供とママだけの集まりなのですが、湖西市青空学級運営協議会のＮＰＯ法人コラボりん湖西様が長年サポートしてくださっておりまして、そのおかげで全地区の合同イベントも開催されております。例を挙げますと、専門家を招いての親子レゴ遊びや、ジュビロ磐田との運動会も開催できております。今月はその親子レゴ遊びがありますので、私もリーダーという役から離れて、子供やほかのママたちと思い切り活動できると、すごく楽しみにしているところです。

私は今でこそ、この湖西市にたくさんの友達ができましたが、結婚を機に、浜松市から夫婦で新居町に引っ越してきた９年前は、友達どころか、知り合いがほとんどいませんでした。そんな中、子供の定期健診で友達になった友人と、新居町鷲津町合同イベントというイベントに参加したのが、青空学級を知るきっかけとなりました。

当時の青空学級は新居地区に５学級、鷲津地区１学級あり、私たちと同年代の親子でとてもにぎわっていたことをよく覚えています。どのブースに行っても、そこにいるママたちはみんな笑顔で、すごく楽しそうで、友達だとか、そういうつながりがなくても、同じママというだけで受け入れてくれる温かい雰囲気がそこにはありました。その場で翌年度からの入会を迷うことなく決め、その当時、勇気を持って一歩踏み出したことが、本当に良かったと今になっては思います。

最初にお話ししたのですけれども、青空学級加入の最初の年から今年で６年目になります。その間にはメンバーがどんどん変わっていき、私自身も来年度の青空学級の加入をどうしようかと考えた年もありました。長く加入していれば、おのずと役員の仕事も回ってきます。役員はやってみれば楽しいということもあるんですけれども、やはり当然、普通に参加する方がずっと楽で、楽しめると思っています。

それでも青空学級に入り続けるのは、楽しいからということのほかに、私なりの理由があります。まず、娘たちに同じ地域に住む同級生の友達が幼稚園に入る前からいたらいいなという思い、そしてもう１つは、これはあるお母さんが話してくださったことで、そのとき私はそこまで考えて青空学級に入っているのかとすごく心を打たれた言葉だったんですけれども、こういう集まりは一度なくなったら、再開するのは本当に難しい、続けていくことが大切だから、今年も青空学級に入ることにしたという話です。

私自身は１家族にすぎませんが、加入することによって青空学級が続いていくのなら、また役員を引き受けることで、それが恩返しになるのならと思い、これまで青空学級に参加してきました。

今回のこの機会に青空学級の６年間を振り返ってみたら、本当に多くの貴重な経験と、心強い声を青空学級からもらっていたことに気づきました。親子揃って初めての幼稚園だった長女の入園前にいろいろ教えてくれたのは青空学級の先輩ママたちでした。気軽におしゃべりしたり、挨拶を交わしたりできる友達がこんなにたくさんできるとは、青空学級に入っていなければ考えられなかったと思います。

そして私自身のメインは子育てだけれども、働きたいという思いを酌んで、在宅でできる仕事を提供してくださるＮＰＯ法人の方との御縁も、青空学級でできたものです。青空学級は入って良かったと思うお母さんが多くいるからこそ続いてほしいと願い、次のメンバーにバトンが引き継がれて、こんなにも長い間継続しているのだと思います。

ここ数年、会員数の減少や活動場所の有料化などで、規模がすごく縮小してしまいました。しかし、また来年も今年以上に良い活動ができるよう、しっかりと次のメンバーに引き継いでいきたいと思います。青空学級がずっと湖西の親子の居場所であり続けられるよう、温かい目で見守っていただけたらと思います。ありがとうございました。

【川勝知事】 湖西を代表する若い発言者１さんと発言者２さんにお話しいただきまして、良いですね。発言者１さんの場合、一種の豊田佐吉ですな。ともかくお話の内容が良いですね。５年前に自動車のエンジニアをしていて、考えるところがあったと。それは何か。御両親のことだと言うじゃないですか。ですから両親のことを考える年代が、今発言者１さん幾つですか。（【発言者１】38 です。）32，3 の頃に考えたわけですね。そこまでどこにお住まいだったんですか。（【発言者１】それまでは愛知県の刈谷です。）御両親の所からは離れていたわけですね。

30歳ぐらいになると、人生の転機が訪れるんじゃないでしょうか。結婚する相手が決まったり、そうするとその結婚する相手の方に自分の両親を紹介しなくちゃいけないし、自分もまたその方の両親に会いに行かなくちゃいけないということがある。どこに住もうかということと同時に、これから父母はどうなるかということを考えますから、そうしたことで静岡県では「30歳になったら静岡県！」ということで、気がついたときに、一体故郷はどうなっているかということの情報をできる限り差し上げたいということで、そういう運動を今始めているんですけれども、それをもう前もってなさっておられたのが発言者１さんだと思います。

そして、御両親のキュウリ栽培からだけでは決して今日のようなＡＩを活用したキュウリ栽培はできなかっただろうと。外へ出て御自身が身につけたノウハウを全く違う分野である農業に活かされて、しかも２万円くらいで手に入るという自らの発明品ですね。キュウリの選別機を自分で発明したというんですから、これ特許を取って世界のトヨタならぬ発言者１になったらどうかなというような、そういうつくる風土があるんでしょうね。

そして、実は県の方も遅まきではございますけれども、ＡＯＩ－ＰＡＲＣというのが、この西部ではなくて東部の方に、ＡＯＩの「Ａ」は「Agri」、農業です。「Ｏ」は「Open」、開かれた、「Ｉ」は「Innovation」、ＰＡＲＣの「Ｐ」は「Practical」、実用的なとか、「Ａ」は「Applied」、「Ｒ」は「Research」、「Ｃ」は「Center」、これに日本トップクラスの理化学研究所の組織と慶應義塾大学情報学部が加わって、旧東海大学の跡地にＡＯＩ－ＰＡＲＣを造ったんですが、全く同じ考えです。

つまりお父上の時代まで匠の技で作っていた農業を、これを全部機械に覚えさせるといいますか、機械が判断できるようにする。ですから、今難しいことを言われていましたけれども、人間の認識能力を機械が全部やってしまって、お母上がなさっておられた自分の経験で培った技術を、そのまま機械が代替してくれると。そうするとものすごく効率が上がりますね。これを今やっておられて、これをスマート農業というふうに名付けられております。

そして、スマート農業と名付けるだけじゃなくて、キュウリ栽培をやって、これが実は知的にすごく興奮すると言いますか、レベルの高い仕事であるということにお気づきになって、つまり農業というのは遅れているとか、後継者がいないから廃れていくとかというふうに言われますけれども、違うということを言われているわけです。

人々は食べ物がなければ生きていけませんが、そうしたところで品質の高い、良い製品

を９つぐらいの基準があって、それを一気に機械が判断してくれて、選別していくというわけでしょう。この基準がさらに複雑になっていくと、小さな農家でもそれができるようになるということじゃないかと思うんですよ。

こういうものを私は是非学校でも、小学校の高学年か中学ぐらいになると、判断する能力を持っていますから、さすがにこういうプログラミングができるような能力持っている先生は多くないと思いますので、湖西の小学生、中学生が発言者１さんに習うのが良いかなと。もう先生だと思いました。良い先生がいるなと思いました。

もう１つ、女性の方の発言者２さんは、青空学級という始めから先生がいるところに来られて、しかも全く知らない人が周りにいると。浜松から移ってきて、おふたりとも友達がいない、お子様ができた、青空学級の存在を知った。それは何ともう昭和 50 年代から歴史があったと、こういうわけでしょう。先輩ママさんがいらっしゃる。あっという間に友達になったと。経験から学ぶ。

自分もまたその方たちにとって御自身の経験を伝えることができて、5，6 年たって、今はリーダーになられて、役員になられたということで、どうしようかといったときに、やっぱり先輩ママさんが継続していくということが大事だということをおっしゃって、自分もやっていこうということで、これがこの 10 年が 20 年、20 年が 30 年、30 年が 40 年、やがて今６年目の発言者２さんも 10 年、20 年とたっていって、第２、第３の発言者２さんが出てくると、こういうことじゃないかと思います。

今結婚してアパートに住んで、お子様ができて、どうしたら良いか分からないで悩んでいるママさんがたくさんいます。そうしたときに、湖西では、代々引き継がれてきた市政の中で、市も援助しているとおっしゃっていましたね。ですから市とこういう青空学級のようなママさんの組織が連携をして、子育てを助けていると。そして実際、お母さんの勉強にもなると同時に、子供の勉強にもなっているということで、こういう地域はやっぱり改めて合併しなくて良かったなと。

実は、外れている所は、放っておかれているんですよ。ですから、もう一度こういうコミュニティの大切さをここから出していただきたいと。そして今、湖西の存在が世界に訴える。ママさんの問題というのは少子化の問題で、これは東南アジアでも、韓国でも、中国でも同じ問題があります。そうしたときに一番大切なのがコミュニティだと。

それから、もう１つ大事なのは食べ物ですね。農業です。ここは半農半漁の、元々新居

のような所がありましたから、魚も食べられる、果物も野菜もたくさんできるということで、しかも工業のメッカでもある、聖地ですね。

そういう所なので、いろんな可能性がある所だということで、何と言っても景色がきれいですね。この風景の美しさというのが心の美しさを生んでいくのではないか。風土の形というのは、心の形の原型になるのではないかと思いますけれども、こういうきれいな景観を残しながら、こういう青年たちが育っていくというのは喜ばしい。だから、こちらに移り住んでいきたいなというような運動をなさっていると思いますけれども、十分にそれを言える根拠がある地域だということを今のおふたりの話を聞いて感じた次第でございます。良いお話をいただきまして、本当にありがとうございました。

【発言者３】　湖西市ときわで、飲食店ときわ cafe を経営しております店主の発言者３と申します。今日はこのような席で発表させていただくことを、とても有り難く思っております。

私は高校卒業後、30 年ほど、美術系の仕事でサラリーマンをやっておりましたが、２人の子供がそれぞれ独立し、病気だった舅、姑を見送った後、これから後 10 年、今までできなかった、やりたかったことをやらせてもらおうと、家族の理解、協力の下でサービス業の道を歩き始めました。

当初はパートで飲食店に勤め、６年ほど、そしてその間にいろいろな勉強を商工会で受講させていただき、自分でもできるのではないか、やってみよう、やれるか、やれないか、でも、もういい年だし、今ならやれると思いながら、開業の道を進みました。店舗を開いて今４年半ほどになります。

お店を作るに当たりまして考えたことが幾つかあります。まず名前です。店の所在地がときわ３丁目、単純なようですが、誰もが読めて、言いやすくて、書けて、何の店か分かるものにしたいと、常々思っていました。地元に根付いた、ぶらりと寄ってもらえる場所を作りたいということが根本にあります。それで、付けた名前が「ときわ cafe」という名前でした。

そのほかにもいろいろ思うことがあって、もちろん飲食店ですので、おいしいコーヒーや食べ物、それから寛いでいただける店作りというのはありますけれども、そのほかに人が寄ってくれるアイテムとして、誰もが気軽に展示や販売ができるギャラリー、それからワークショップとか、お教室とか、講座が開催できるレンタルルーム、お店の時間外であ

る日曜日、夜間などに利用できる、例えばライブであるとか、音楽練習であるとか、そういうものに利用できるお店を貸し出すシステム、それから今若いお母さん方たちが盛んにやっておりますけれども、ハンドメイドとかの、準備をしていただくとか応援する展示コーナー、販売コーナー、そういったものをお茶やお菓子と一緒に楽しめるスペースを作って、人の寄る、人の集まる場所を提供できたらいいなということを思って始めました。

また最近盛んに行われているイベント、マルシェ、フェアなどの会場として使ってもらうことができるように、庭を広く取り、駐車場もそれなりに確保してございます。規模は小さいですけれども、そういったものを地元の方に使っていただくことができたらなというのが根本にあります。

昨年秋に台風で大規模停電になった折などは、おかげさまで店舗の方は一晩で停電が解消いたしましたので、次の朝、聞きましたら、私の自宅の方は丸 50 時間ほど停電いたしましたが、周辺もかなり停電数が多く、そういった方々のためにお店を早朝から開けまして、水、電気、食料など、お困りの方に場所を使っていただきました。ＳＮＳのお知らせのみでしたので、なかなか行き渡らなくて、皆さん携帯の電源が切れたりして、来てくださった人数は多くなかったんですけれども、市の公民館よりも早く私の店を無料で提供いたしましたことは、個人店ならではと思って自負しております。

とは言え、まだまだ知名度が低く、レンタルギャラリーなどは、まだまだ利用はそれほど多くないのが現状であります。豊橋と浜松に囲まれ、今豊橋でも浜松でもイベント等がとても盛んで、にぎわいを見せているんですが、湖西では、新所原を元気にする会とか、地元の方で活動されている団体さんがあったりするんですが、なかなか地元から発生するイベント的なものが盛んにならないということで、是非地域から自前で発生するイベント的な地域貢献的なものの元になればと強く願っています。

嬉しいことに、私の子供のようなママさんたちが多いのですが、同じような趣味を持った方がグループを作って創作活動をしたり、マルシェ的なことをやったりし、地域の貢献活動をしたりしているグループも新しく発生しております。地元の発信ということができたらいいなといつも考えています。また気軽に寄っていただける、何でもなくても寄れるスペースがありますので、そういった所を地元の方に御利用いただけたらいいなって思っております。ありがとうございました。

【発言者４】　静岡県ノルディック・ウォーク連盟理事長、発言者４と申します。

今日はノルディック・ウォークについてお話ししたいと思いますが、まずはちょっとすみません、会場の皆さんにお伺いしたいんですけれども、ノルディック・ウォーク知っているよという方、どのぐらいいらっしゃいますか。（挙手）ありがとうございます。結構いらっしゃいますね。じゃあ、やったことあるよという方。（挙手）随分減っちゃいましたけれども、でも結構いらっしゃいますね。ありがとうございます。

今日は改めてそのノルディック・ウォークについてお話しさせていただくので、よろしくお願いいたします。

まずはこのノルディック・ウォークですね、もう皆さん御存知ということでしたけれども、２本のポールを持って歩く新しい健康増進法です。歴史はまだ実は新しくて、1997 年、これはノルディック・ウォークということで、北欧のフィンランドから生まれたウォーキングでして、これがすぐに日本に入って来たんですけれども、メジャーと言いますか、こうやって皆さんに知っていただき、そしてやっている方が増えるようになったのは実はここ最近５年ぐらいのお話でして、毎年私たちが感じるところですが、本当にすごく愛好者が増えているなという実感は持っております。でも今現状では恐らく 100 万人ぐらいしか愛好者はいないということで、まだまだ小さい、少ないというところではあるかなと思います。

ノルディック・ウォークがこんなに皆さんに認知されて、良いというふうに言われるようになったのには理由がありまして、実際にノルディック・ウォークというのは、２本のポールを持って歩くだけなんですね。よく健康増進とか、運動に何が良いかというと、有酸素性運動で、すごく効果的な運動というとウォーキングというのがよく選ばれて、やっている運動の人気ナンバーワンはウォーキングとよく言われます。

そのウォーキングよりも、実はノルディック・ウォークの方が随分良いですよということなんです。いわゆるウォーキングはほとんど下半身中心の運動になります。２本のポールを持つだけで、遊んでいる上半身、腕とかが積極的に使えるといったところがポイントでして、そういうところが実は運動効果を上げます。全身運動になるんですね。消費カロリーが大体 20％ぐらい上がると言われております。

運動強度としてはウォーキングよりはちょっと高め、走るとか、ジョギングとか、そういったものと比べると少し優しいということです。運動強度が高いと良いことが実はありまして、皆さん、運動するとき、どうですか、たくさん長い時間できますか。運動の効果

を得ようとしたら、例えば走るとか、そういった運動をするとすごく効果が得られるんですが、苦しくて続かない、すぐやめてしまいます。

一方で、ウォーキングはそんなに辛くないんですけれども、ある程度の効果を得るためには、比較的長くやらないと。ダイエットのために脂肪を落とそうといった場合ですと、ウォーキングだと長い時間、しかも期間も続けてやらないと、なかなか効果が出ないというふうに思います。けれどもノルディック・ウォークは、遊んでいる上半身を積極的に使うので、すごく効率よく、皆さんお忙しいですから、早く効果が出るという良さがあります。

あともう１つポイントがあります。遊んでいる上半身をポールで支える、実はそういう良さもありまして、支えることによって四つ足歩行になります。通常人間は二足歩行で、進化の過程で手が使えるようになったわけですけれども、一方では膝、腰に非常に負担がかかる歩き方になってしまいました。

大体体重の1.5倍ぐらい衝撃がかかると言われていまして、それが２本のポールを持つことによって軽減する。運動してくださいねと言われてウォーキングを始めたが、膝を痛めて、できなくなったといったようなことも実は防げる安全なウォーキングとしてノルディック・ウォークは知られていまして、高齢者の方も最近はやるということで、高齢者を中心に愛好者が非常に増えています。

もちろん若い人にやっていただいても良いものなんです。最近、私たちの取組として、このノルディック・ウォークを体験できる場を作りましょうということで、浜名湖ガーデンパークでは月２回、皆さんが参加できる体験の場を作っています。

あと、このノルディック・ウォークを普及させるには、実はインストラクター、指導員の方が大事です。ただポールを持って歩くだけでのものなんですけれども、実は結構奥が深くて、しっかり腕を使えているかなどを習うと、より効果的なものなんですね。

皆さん運動不足だとか、運動しなければなということが片隅にあると、ちょっと歩いてみようかなということで、そういう場に参加してくれています。そういうことによって、運動する機会ができる。しかも、運動したことで、ノルディック・ウォークの良さが分かり、集まって仲間ができる、そういった良いサイクルが回り始めます。

もっと言うと、非常に良いから、仕事を辞めて余りやることがなかったんだけど、インストラクターの資格を取って教えようと、そのような方がいらっしゃいます。そういう方

なんかは、カレンダーに毎日ノルディック・ウォークと埋まるようなライフスタイルが新しくできている。新しい健康増進のスタイルです。

このノルディック・ウォークは、行政の介護予防教室とか、インストラクターがやる体験教室、今日皆さんのお手元にはそういった活動をされている皆さんのパンフレットを付けさせてもらったんですけれども、最近の一番新しい情報ですと、お隣の浜松市では予算をつけて、まず10コース、ノルディック・ウォークのコースを設定しました。そこを歩くいわゆるノルディック・ウォークの会を作ろうということで、まずノルディック・ウォークをやる人を集めるいわゆる普及推進リーダーを集めましたが、予約で一杯になって、抽選になってしまうぐらい人気でした。これから歩く人たちを募るというところに今なっています。行く行くは、その10カ所の拠点ができて、またより歩く場所ができるよう、そのような試みを浜松市は仕掛けております。

先ほど合併の話が出ていましたけれども、湖西市は合併しなかったので、やはりお隣の浜松市以上に、よりノルディック・ウォークを良い方に持っていく試みをやっていただくといいかなと思います。あとこの静岡県で行っているノルディック・ウォークは、実は全国から見てもトップクラスです。今のパンフレットにあります体験教室の種類とか場所、これだけたくさんの所は実はないんです。

これはなぜかというと、やっぱりインストラクターの皆さんがそういう場を作ってくれる、そういった実績があるため、例えばお隣の愛知県、それからちょっと遠くですけれども、岡山県とか、九州ですと大分県、鹿児島県が静岡を見習おうと、そういう活動をやっています。

私たちもその静岡県のノルディック・ウォーク連盟、そして全日本ノルディック・ウォーク連盟でそういった活動をしておりますので、是非このノルディック・ウォークの普及に向けて支援をお願いします。健康寿命の延伸とか、経済活性化、それとより皆さん社会参加してくださいという国の施策もありますので、そういうのにノルディック・ウォークは非常に良い核になると思っていますので、是非支援の方をお願いしたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

【川勝知事】　最初の青年おふたりの後は壮年のおふたりのお話を承りまして、発言者３さんはいわばセカンドライフを充実して楽しまれているというところが良かったと私は思いました。お子様を育てられ、しかもお姑、お舅さんをお見送りになって、さて次にどう

するかというそこは誰でも転機が来ると思うわけですね。ここのところの大転換に成功したのが発言者３さんだったんじゃないか。

ちなみに、平成はこの４月 30 日で幕を閉じて、今度新しい世になりますけれども、そのときの皇太子殿下はお幾つでしょうか。殿下は 1960 年、昭和 35 年生まれですから、この２月 23 日に満 59 歳になられるわけです。だから昔で言うと、数えで言えば 60 歳ですね。60 歳から本格的な公務と言いますか、お仕事が始まるというわけです。

通常は、子供が巣立った、御両親も見送った、さあどうしようかというときに定年なんかになったりするわけですが、後はもうぶらぶらしているとか、そこで発言者３さんは私にできることは何かということでカフェを、それは良いと。プラスですよ、ここからいろんな人がお越しになられるような付加価値を持った、最近の言葉で言うと居場所づくりといいますかね、居場所がないというのは本当に辛いことのようで、そのために県でも本格的に居場所を選定してやっているわけですが、まだ発言者３さんの所は私ども知らなくて、県の居場所の中に入ってなかったと先ほど聞いたわけですけれども、実質それをしておられて、この間皆様方に停電で大変な御迷惑をおかけしたわけですけれども、そのときにちゃんと電気や水を自分のところに来たら使用できますよということをやっておられるということで、本当にこの地域に根付いた活動をされておられると。こういうアイデアをお持ちだったわけですね。

潜在的に眠っていた発言者３さんのいろいろなものをやりたいという子育てでいろいろと発揮されたに違いない能力が、今地域活動で発揮されているということじゃないかと思いまして、こういう第二の人生の在り方がすばらしい。

これいつまで続けるかということなんですが、今の天皇陛下のお年はお幾つでしょうか。去年の 12 月 23 日で 85 歳になられました。1933 年生まれです、昭和８年生まれです。1989 年、55 歳で一番お忙しい仕事に就かれて、今 85 歳と１カ月ですよ。85 歳と４カ月余りまで現役でお仕事をなさっておられるわけです。余力を持って引退されると言いますか、譲位されると。80 代の半ばまで現役なわけです。

そういうわけで、日本国民統合のシンボルが 80 代、先帝、昭和天皇は 1901 年生まれで 1989 年に崩御されました。したがって、最後の 2，3 年は御病気がちでしたけれども、80 代前半まで仕事されていたわけです。ですから、それが我々の代表と言いますか、シンボルですから、そういうつもりでやっていきましょう。

そのために何が良いかというとノルディックが良いんじゃないか。このノルディックと

いうのは、実は正直申し上げますと、あんな２本の棒を持ってね、格好つけて、何しているのかというのが僕のついこの間までの印象だったんですよ。

ところがですね、実は昨年の秋、山の４県があるんですよ、新潟県、長野県、山梨県、静岡県の４県の知事さんのサミットがありまして、もう昨年で５回目なんです。「山の日」が出来上がってから山を楽しもうということで、長野県が昨年担当県で行きました。

佐久という所に４人の知事さんが集まって、大きな体育館に案内されて、ノルディックの棒ですね、スティックというんですか、あれ。（「ポールです」）ポールですね。このポールを見せられて、やってみなと言われたんですよ。やってみなと言われても、歩くと違うんです。

それは､今日は余り詳しく言われませんでしたけれども､フィンランドから始まったと。あそこはスキーが盛んですよね。夏どうするんですか。夏鍛えられないでしょう。だからスキーでもあのポールを使うじゃないですか。それで後ろに蹴るというところから、夏に鍛えるために始まったそうです。

ところが、もう一つ前に突くと。先ほど四つ足とおっしゃっていましたけれども、前に突いて、実はそれでポールの形も違うらしいです。そのポールを、日本で全部作っているのが長野県だと自慢されたんですよ。長野県内の企業３社で日本全体のポールを作っていると言われて。そしてポールの使い方も知らないので「やってみな」と言われて、それで今度は県の職員、学校の先生、医学部関係の先生が来られて、ポールを使う場合と使わなかった場合の体の、上腕のどちらが上がるかという統計数字を見せられました。普通に歩いているのと違って、使っていない上半身がちゃんと鍛えられて、運動量が増している、効果も高い、短い期間で十分な効果が上げられると、明確な統計数字を見せられて、「どうですか」というふうに、新潟県知事、山梨県知事、私に言われて、「おたくはノルディックやっているか」と言われて、「たしか島田にはそういうコースがあったと聞いている」と。「じゃあこれもっと増やして、日本中を健康にするということについてどう思いますか」、「それはもう大変重要だから、一緒に４県で広めましょう」と。

ただし、全部これ長野県産の物を使うのもちょっと辛いところがあるなと思っていたわけですよ。ちょっと聞いたら、この発言者４さんがお勤めの会社でもポールを作っていると。前突きのものと、後ろ突きのものと両方作っている？（【発言者４】両方作っています。）

それから、この方はノルディックのマイスター、つまり教授なんですよ、お師匠さんな

んですね。インストラクターの一番上にいらっしゃる方で、だから話し方が非常に分かりやすいですよね。今日歩き方の教え方は実演してもらえませんでしたけれども、これをやると確実に元気になると。だからこれは格好じゃないんですね。これは運動しているという、１つの運動の仕方なんです。

僕は発言者４さんの会社がポールを作っているということを知りませんでした。それから湖西に発言者４さんみたいなマイスターがいらっしゃるということも、実はさっきお昼に初めて知ったんですよ。これで長野に対抗できると思ったんです。

そしたら今度、発言者４さんは実は静岡県はこのノルディック・ウォークで全国のトップクラスをいっているとおっしゃったじゃないですか。じゃトップになりましょう。何か湖西を見て、お隣の浜松でも 10 ぐらいコースを設けてやっているということです。できれば、長野県の企業のものではなく発言者４さんの会社の物を使いましょう。

それで、長さもそれぞれの身長に応じて調整して、それをどういうふうに使うかと。それから単に歩くときに使うだけでなくて、いろいろな運動にも使えるということで、これはそんなに長い時間がかかるインストラクションじゃないと思いますので、これをマスターして、この地域、あちらこちらでこのノルディック・ウォークで健康を維持されている方がいるということで、そしてこれのマスターになるといろいろ教えることができるので、それでまたちょっとした小遣いを稼げるということで、皆さんも。私は２か月か３か月前にこの件について面目を新たにしたのと同じように、今日は本当に湖西に来て、この話は静岡県にとって良かったと思ったことの１つだったわけですよ。

是非これをきっかけにノルディック・ウォークのメッカに静岡県がなっていければ良いということで、発言者４さん、これからもどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

【発言者５】　こんにちは。私は湖西市鷲津でセミオーダーの洋服の製作と、既製婦人服、雑貨の販売をしている発言者５です。今日はよろしくお願いします。失礼します。

私のセミオーダーとは、決まった型を基本に、デザインや素材をアレンジして製作することです。ある程度決められた選択肢の中から選んでいただくことで、限りなくお客様の希望の物を作り出していけます。

私がこのお店を始めるきっかけは、以前働いていたお店でエプロンをしていたんですけれども、15 年ぐらい前なんですけれども、体型が、ちょっとヒップの辺りが気になるよう

になりまして、それをファッションを取り入れて隠しながらエプロンをしたいということで、自分なりにエプロンを考えて作って、自分で使用していたところ、お友達や知り合いの方からすごく好評で、その方々の勧めもあり、お店を始めました。そのエプロンをファッションの一部としてスカートのような、エプロンのような、後ろから見てもお尻が全部隠れるようなエプロンだったんですけれども、とても好評でした。

現在は婦人服がほとんどで、お客様の体型に合ったデザイン、サイズを一人一人の方に提案させていただいています。素材の布というのがほとんどは伸縮性のあるものですが、冬にはウールなど、温かいものもあります。３年前からは遠州地方に古くから伝わる遠州綿紬も取り扱わせていただいています。

過去にアレルギー体質で化繊がどうしても着られないお客様がいまして、そういう方にはオーガニックなどの布選びからデザイン、縫製まで相談しながら作りました。縫製というのは、やはりアレルギーの方は皮膚が弱いので、縫い目を外に出すことで、直に縫い目の出た部分を触らないように、刺激のないようにするような工夫をしました。

ほかには、例えば手が長く、既製品だと長さが足りず、いつもおしゃれができないという方にも、その方の手の長さに合わせてお作りすることで、喜んでいただけました。

あと、左右で腕の長さが違う方もいらっしゃって、その長さの左右に合わせて作らせていただきました。お客様が気になっている部分をうまくカバーすることで、おしゃれを楽しんでいただいています。

何枚かお作りすることで、その方の好みや似合うデザイン、布の柄などが分かるようになって、より気に入っていただける商品が作れるようになりました。

特定の方に対し、求められる製品を提供できるのは、私みたいな小規模経営者だからこそできる私の強みだと思っております。

去年商工会の勧めもあり、県の補助金で、経営力向上事業費補助金を活用して、生産力向上のための機械を購入させていただきました。補助金の事業の目的の１つの経営革新については、静岡県商工会連合会広域サポートセンターと湖西市商工会の支援を受けながら、事業内容を磨き上げていきました。昨年８月にダウン症の方に向けた和洋服、装飾品の開発、販売をテーマに、経営革新計画の承認をいただきました。

経営革新の目標は、デザイン性、機能性、着心地の良さを重視した製品を作成し販売するというものです。これもお客様の要望を基に社会参加を促す試みとして取り組んでいま

す。この新たな取組の機会を与えてくださった県、並びに御支援いただいた静岡県商工会連合会、湖西市商工会に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

実は私は23年前、大阪から、家族以外知り合いもないこの湖西に嫁いで参ったんですけれども、この湖西でたくさんの方にいろいろな面で本当に助けていただいて今があります。

最近はお客様の楽しいこと、辛いこと、時には病気のことなども相談に来られる方が増えました。逆に私の悩みもお客様に聞いていただいて、相談することも多々あります。その中で日頃から思い続けて、大切にしていることは、幼い頃からの母の教えでもある「人を大切にすること」、あと「助けを私に求めて来られた方を助けられる人間でありたい」と日々思っています。今まで支えてくださった方への感謝を込め、多くはなくても、誰かの役に立つ仕事を続けていくことが、私のやるべきことだと思っています。

今日は失礼かもしれないんですけれども、テレビでしか拝見したことがない川勝知事と、そばでこういうお話ができるなんて思ってもみなかったので、本当に頑張ってきて良かったなと思います。

私のやっていることをより多くの方に知っていただき、一人でも多くの方のお役に立てるよう、接点を持つ場などを紹介していただければ幸いです。本日は参加させていただき、ありがとうございました。

【発言者６】　今、御紹介にあずかりました湖西市横山でバイオスシステムという会社を経営しています発言者６と申します。よろしくお願いします。

私、湖西市へ来て、横山で今事業をしておりますけれども、その前は三ヶ日の方で事業をしておりました。創業ですと30年、ちょうど今年で30年ですが、26年目ぐらいに人手が多くなり、三ヶ日の方の事業所では手狭になったものですから、いろいろ探していましたら、ちょうど横山にそういう物件があるということで、実はここへ入るためには、湖西市の商工担当課の皆さん方にいろいろ御援助いただきまして、入ることができました。ちょうど入ってから６年たちますけれども、人数そのものは十数名で事業しております。

ここの所で何をしているかということですが、紹介にもありましたように、ＧＰＳを使って速度計という物を作っております。この速度計は、実は車の性能試験をするには必ず必要な機材、器具、計測器で、自動車メーカーによって台数は違いますが、何百台という物を導入いただいておりますが、車を開発するためのツールになるわけです。従いましてテストコースの中でこの機材を使っていただくということになります。

速度計は何に使うかと言いますと、例えば皆さん方御存知のように、ゼロヨン発進のようなときには、ゼロから 100 キロまで何秒でいったか。ゼロヨンですから、0-400mまで何秒で到達したか、こんなようなものが当然性能ということになりますし、そのためのエンジンであるだとか、車体を作るということになると思うんですが、それを測る手段というのは、実を言いますと全て速度計、若しくは距離計という言葉を使いますが、速度距離計という物を使って測ります。

当然ですが、発進するときは発進加速ということになりますが、今度止まるときにはブレーキ試験、若しくは制御試験ということで、何メートルで止まるか。100 キロで走って来た物が、何秒で何メートルで止まるかというようなものを測るのは、やはり実を言いますとこういう速度計を使います。

したがいまして、速度計と言うと皆さん方、車にメーターが付いているじゃないのというお話になるわけですが、その速度計は、実を言うと誤差が 10%ぐらいあります。ですから皆さん方が 100 キロ出している、出していると言っていても、実際の速度を測ると 95 キロとか、90 キロとか、海外の車ですとほぼ近い状態が出ますけれども、かなり誤差がある。

したがいまして、真の速度をどうやって出すかということになるわけです。実は手前どもはＧＰＳを使った速度計を日本で初めて開発したということですが、開発したと同時に、計測器ですので、どうやってその速度の正しさを示すかということが一番問題になってきます。

その速度の精度を出すために、実は速度という言葉は、もう何百年も前から言葉としてあるわけですが、このＧＰＳで測ろうとしたときに、実際に速度を証明する方法を国土交通省に相談しても、通産省に相談しても、どこも答えが出なかったというのが実は現実です。

私も自分で作った機械ですので、それを何とか証明して、自動車メーカーに使ってもらいたいというふうに考えて、日本自動車研究所という所へ飛び込んで、一緒になってその速度の精度を出すための開発をしようということで、それを開発いたしました。そのことによって国でも使っていただけるようになって、当然自動車メーカーもそれでは使いましょうということで使っていただけるようになりました。

従来も、当然ですが、速度計、車の性能を測るための速度計が存在していたわけですが、

その何倍もの精度が出るということで、実はその精度を検証していただく機関に一番最初に導入していただきました。今までの精度から比べれば一桁違います。

どのくらいの精度かと言いますと、100 キロで走っていて、0.1 キロの精度を持っています。ちょっとその話になりますと、微分積分の話になってしまいますので、細かい話はさて置きますけれども、100 キロで走っていて 0.1 キロというのが、どの秒数の単位で言うかと言いますと、1,000 分の１秒の時点の速度の精度が 0.1 キロ、こんなような精度を実は持っております。

このことによって、国内での精度の証明だけではなくて、世界的なＩＳＯ17025 の証明をするということで、そこに申請をして、その精度の認証を取ったということで、手前どもの速度計を使う限り、アメリカの会社まで含めて世界中どこへ行っても、その機械を使えば、そこで出てきた速度を使えるというような認証証明を取っております。こんなような速度計を作っているのが手前どもです。

横山ですと、ちょうど湖西の一番端ですけれども、前の会社の跡地の事務所を実はそのまま使って、事業をさせていただいております。

最近ですと、この速度計だけではなくて、車間距離計というのも作っております。これもやはりＧＰＳを使って作っております。平たく言いますと、100 キロでも 200 キロでも構わないんですが、前の車両に、例えば最近ですと、前の車両と等距離を持ちながら追従していくという車があります。ＡＣＣ、アダプティブ・クルーズ・コントロールと言い、車間距離を自動コントロールしていきますが、その距離を測るということを当然します。

当然ですが、自動車メーカーはこれを生産した時点で、実際に等距離で走っているのかというようなことを調べる必要が出て参ります。したがいまして、前の車にＧＰＳを積んで、後ろの車両にもＧＰＳを積んで、それで前の車両に追従していく。そのときの距離を 100 キロで走っていて２センチの精度でそれを測るということを実現しております。このＧＰＳ式の車間距離計というのは、実はライバルはイギリスにありますが、イギリスのメーカーよりも早く、ですから世界で初めてこの車間距離計を開発して、販売をさせていただいております。

手前どもでは、今作り方の問題ですが、当然ですが、企画をして、成型をして、製造に関しましては、かなりの部分を外に出しますが、それをまた販売するというような形をとっております。

例えば今の車間距離計ですが、警察庁の科学警察研究所という所がありますが、そこと

も話をして、例えばあおり運転というのが今よく出てきて話題になっておりますが、このあおり運転の定義というのは何だということになりますと、非常に難しい問題です。

難しい問題というのは、実際どのくらいの距離で、どのくらいの相対速度で、どのくらいの相対距離を持っていたのか、それがどう変化したのか、それが本当にあおりを誘っていたのかどうか。それから左右に、例えば車を振ったよといったら、どのくらいの範囲の中で振っていたのかというのを、それを数値化していかないと、なかなかあおり運転の定義というのはできないんじゃないかというようなことを、逆に私どもも日本全国の科学警察研究所に手前どもの装置が入っておりますので、今そちらの研究所とも話をしながら、できたらあおり運転の車間距離計をやりませんか、共同研究しませんかというような話も持ちかけております。

当然自動車メーカーでは、ちょっと専門的な話になりますが、ＡＣＣとか、ＢＳＭとか、ブラインド・スポット・モニターと言いまして、左右に車が来たときに、ちょうどサイドミラーにチカチカチカッと点灯しますが、そういう点灯する警告はどの範囲のときにそれが点灯するかということを検証していかないと、その機能が保証できないというような意味でのそういう検証をするための装置として使っていただいております。

そんな、ちょっと分かりづらいお話かもしれませんが、車を開発するについて必要なそういう安全装備の性能であるとか、実際にブレーキが利くか利かないかとか、そういう保証をどうやってするかというための検査装置を作っております。

手前ども、実際に車を使って、いろんな試験をしておりますので、今レインボー浜名湖と言いまして、細江町にちょっとしたコースがありまして、そちらのコースへ車を入れて試験をしているんですが、なかなか我々の思うような試験ができない。

今後静岡県の中でも自動運転であるとか、それからＥＶ、電気自動車の開発もどんどん増えてくる。今自動車メーカーというのは、どちらかというと、そういう試験を全部外へ丸投げしております。

もちろん自動車メーカーでも試験はしますけれども、実際にＡＣＣなんて言いますと、前の車との距離を測るのはカメラで、そのカメラの性能というのは、カメラを作るメーカーがそれを測って来いということになります。そうなると、そういうのを今デバイスと表現しますが、デバイスメーカーがそれを試験しなきゃいけない。そうしますと、いろんなセンサーを持っているデバイスメーカーが静岡県内にももちろんありますが、そういうところでも当然ですが、試験コースがないということで、特に静岡県の中は試験コースがほ

とんどありませんので、何とか御検討いただければというようなこともひとつお願いしたいと思います。

それから、この場を借りてもう１つお願いがありまして、実は我々こんな零細企業ですと、人を雇うのがなかなか難しい状態で、特に最近難しい状況があります。皆さん方も今日お聞きいただいている方の御子息を含めて、ＩＴ技術者がもしいらっしゃいましたら、若しくは事務、総務でも経理でもやっていただける方がいらっしゃいましたら、是非よろしくお願いしたいと思います。なんか公私混同みたいな話で申し訳ありませんが、よろしくお願いします。以上です。

【川勝知事】　いや、驚きました。発言者５さんのお話ですが、私も公私混同しますと、発言者５さん、大阪から来られたと。私は、親父は京都なんですけれども、母が大阪なので、ですから大阪の女性が 23 年前ですか、こっちに来られて、成功されて、そしてまたダウン症の女性のおしゃれに一役を買って、人の役に立つということをお母様から一番大切なことだと言われて、それを実践されていると、良いお話で本当嬉しく思いました。湖西に来ると、こういう親の教えも実践できるんだなということでしょうかね。

ともかくおしゃれというのがキーワードと言うか、とても大切なことで、特に女性、先ほど体型が変わってきたときに、その体型を上手に活かして、おしゃれをどうするかということで、そうこうしているうちに素材で、やはりアレルギーなんかを起こす場合、そうした方たちのことを考えて、化繊とか、いわゆる木綿だとか、いろいろあると、縫い方、縫製の仕方でもアレルギーが出にくい、そういうやり方があるということで。服を着ないと人間は生きていけない、衣食住の３つのうちの一番最初に来るのが衣でありますから、単に服を着て、寒さから守るだけでなくて、自分の個性を出すというのがおしゃれ、特に女性の場合はそうだと思うんですけれども、そうした中で障害を持っている人のために、その人たちの心がほっと明かりがつくようなことをなさっておられるということで、本当に良い仕事をされている。

それからまた経営革新計画ですか、これも静岡県は商工会議所であるとか商工会などを通しまして、認定件数がずっとトップクラスです。これに認定されますと、いろいろな特典がございます。ですからそれを是非活用していただいて、良いお仕事をされているので、みんなが、健常者は言うまでもありませんけれども、障害のある方もおしゃれができるというのが、そういう文化になればいいなというふうに思います。

この湖西に入ると、町がおしゃれで、人々も、別に目立つというのじゃなくて、どこかおしゃれして、すごくしゃれているというのはいいじゃないですか。そういうことで、静岡全体がそういうおしゃれな県になればいいなというふうに実は思っておりまして、そうしたところはどこから始まるか。まずは服のデザインからだということで、やっぱりこのデザインについては、まず素材を見る目がないといけないので、何しろここは織物から始まったわけですから、遠州織物、この織物をどのように、お母さんの仕事を助けるために佐吉さんがお父上から学んだ大工仕事ですね、なるべく労力のかからない織機を作ったというところから始まった。一方で、作ったものをどのように人々が喜んで着るかというのは、やっぱりこういう方がいないと、発言者５さんのような方がいないとできないということで、ここにも一種の伝統が生きているかなと思いました。

発言者６さんの話は仰天といいますか、驚嘆いたしました、びっくりしました。最初、発言者１さんの話も、すごい人がここにはいると思ったんですけれども、これはノーベル賞級じゃありませんか。速度計や距離計、それから車間距離計ですか、これが 100 キロで走っていて、わずか数センチの誤差を計測できる、そういう高性能の計器を御自身で発明されたというんですから、ものすごいことですね。

イギリスのメーカーよりも早かったというんですから、こういう部門でノーベル賞があったら、人材の派遣よろしくお願いしますと言われているのが信じられないような方がここにいるんだなと思って、警察が注目されているとか、それからこれからの自動運転で、車間距離というのは命でありますから、これをきちっと計測しながら、安全に運転できるようにしていくというときに、今は自動運転でやっております。

ついこの間もエコパで無人運転の実験をやりました。カメラがいっぱい付いているんですよ。私がカメラはどこのカメラですかと、日本だと思ったら韓国なんですって。

カメラの性能を今度試すことが必要で、結局帰って来る所は株式会社バイオスシステムという所、ここに結局頼らざるを得ない。言ってみれば日本の自動車メーカーが全てこういう正確な性能の高い速度計、あるいは距離計ですか、こうしたものを使わざるを得ないと、全部ここに来ている。その方が、試験コースがないとおっしゃっている、静岡県に。もうこれはすぐ作らないといけないんじゃないでしょうか。

ともかくこれは世界のためと言いますか、本当に、今は自動車というのが人類の大きく社会生活を変えて参りましたけれども、こういう背景にそういうすばらしい能力を持った

方が自分で発明して、自分で自動車研究所にまで行かれて、相手の理解を得て、ついにはもう日本の自動車業界から最も頼りにされている、そういう計器を提供している。

しかも、横山でひっそりと暮らしていると言う。本当に大変な隠者と言いますか、隠れた才能がいて、そこで人が足りないとおっしゃっている。これはあんまり知らせると、人がたくさん来て仕様がなくなるんじゃないかと思うくらいですが、十数名とおっしゃったでしょう。信じられないようなことですね。自動車メーカー各社が全部この株式会社バイオスシステム、湖西の横山、静岡の、日本のここにあるということで、聞いていて本当に心から「さすが湖西」という、湖西から始まって、湖西に来て、男女ともにすごいなと。

たった１つの要求は試験コース。どのぐらいのものとか、場所とか、多分おっしゃっているんじゃないですか。できれば湖西市にあればいいと思いますけれども。いろいろな人が泊まりがけで来て、ここで今だったらカキなど、おいしいものを食べて、豊田佐吉さんの生家なんかに行ったり、様々なこちらでのカフェに行ったり、おしゃれな店に行ったり、ここに住んでみようかと思うような人が出てくるような波及効果も出てくればいいと思います。ともかくそういう必要とされるものは、ただ彼の会社のためでなくて、これは明らかにモータリゼーションの中で新しい時代を切り開くためのこういうインフラ整備というのはきっちりしなくちゃいけない。

どうですか、市長さん、一緒にやりますか。今度の県議会で質問してくれますか。そういうことになりまして、大体これからの戦略は大まかなところでありますけれども、整いましたので、どうぞ御遠慮なくおっしゃっていただきたいと思います。誠に啓発していただきましてありがとうございました。感動しました。

【傍聴者１】　ありがとうございます。さっきから農業の話、子供の話、いろんな良いお話を十二分に聞かせてもらって、それに茶々を入れるわけじゃないんです。静岡県も確かに南を見れば太平洋、北を見れば湖西連峰、少し東を見ると富士山、よっぽどの所からは富士山が見えます、特にこの寒い時期になると。私も静岡県の県境に住んでおります境宿の傍聴者１と申します。

県境がどのような状況になっているか、今知事と大勢の皆さんにほんの少しでも県境のことが分かっていただきたいと思います。今まで十何年もものすごく湖西の我々県境、愛知県と静岡県の県境で、豊橋の焼却炉で、ものすごく住民は泣いているんです。ひどいと

きは、自分の所は50軒あります、その50軒が煙で真っ白くなって１軒も見えないです。そのぐらいの状況になっている。

それが今、我々が一生懸命運動することによって、煙が少しは解消されました。だけど、そういう危険な所に住んでおり、市へ言っても、なかなか進展ができない。何で進展できないかというと、言っちゃいかんけど県外のことだから。県外で我々にはままならんと。

それで今まで、１日18トン燃やしていた焼却炉が、今度120トン、24時間営業、今までよりも、ダイオキシンが0.4ピコグラム通り越して。基準を超えて営業停止、行政処分をもらっているような会社なんです。それが今度、それを６倍、７倍にするということは、我々は６倍、７倍の危険にさらされるんです。こういうことをもっともっと我々が時間を作って、みんなで本当に声をかけて、そこに申し込んでいく、一歩前進してほしい。

この前テレビでニュースを見ましたが、仏の川勝さんじゃなくても、できたら鬼の川勝さんにもなってほしいなと思うときもあります。そんなことですから、県境はみんなが思っているほど、きれいなところじゃないんです。今飛んでいるカワセミがあと何年か、もうじき飛ばなくなります。今日も市と県の方で出してもらってダイオキシンの測定をしています。昨日来ていました。今日やります。年に４回です。静岡県中でこの県境が一番ダイオキシンが高い。ダイオキシンというのは、枯葉剤なんです、ベトナムでアメリカがいっぱい撒いた。それを我々は常時浴びているんです。もう少し我々の方へも良かったら目を向けてください。ありがとうございます。

【傍聴者２】　新居町の傍聴者２と申します。海岸堤の近くに住んでおります。私、ＬＧＢＴに関して質問させてください。数年前ですが、あざれあで女性政策塾というのがありまして、湖西市の推薦で半年ほど通わせていただきまして、そのときにそういう方がおりました。外見が男性で中身が女性という方で、初めてそういう方と会ったものですからびっくりしちゃって、みんな隠して生きている。

その方の提言が、県のお知らせに「男も女も」という言葉があって、「男性でも女性でも」という言葉がすごく引っかかるんだと。「全ての県民の皆さんに」という表現でいいじゃないかというようなことを言っておられました。

それともう１つ、オーストラリアに行ったときに、入管は男性・女性と、不確定の３種類があったんです。だからＸという表示もあるそうです。静岡空港ってどうなっているの

かなと思って、もし男性と女性の項目しかなかったら、もう１つ項目増やしてあげたら、訪れる人たちも静岡県に対する認識が違うなと思いました。

精神病が統合失調症、痴呆症が認知症と変わったように、言葉もちょっと変えてほしいなと。静岡新聞か中日新聞か、どっちかが「性同一性障害」の「害」という字を漢字で書いてあったんです。日経は「害」が平仮名です。静岡県の広報は平仮名だったか、漢字だったか。ちょっと発想を転換するだけで、そういう無神経だと取られる方もおられます。

そういったことに配慮することで、県の人口も増えるのではないか。たばこを勤務中に吸わないでくださいというのを市長さんがなさって、湖西でも変わるんだなと思ったことを覚えております。県庁の方のちょっとした発想の転換で、13 人に１人と言われている人たちが、随分救われるんじゃないかなと思います。

【傍聴者３】　今日は「平太さんと語ろう」というので、暮らしと防災がテーマだと、私は思っていましたが、防災の話は一切なかったですね。

そこで、知事にお伺いしたいんですが、県として危機管理をどのようにお考えになっていらっしゃいますか。静岡県は海岸が長いので、地震があれば津波が来ますし、浜岡原発もある。それから富士山の災害も考えられます。浜松は災害復興基金がありますが、湖西市はないですね。県の方もそういう災害復興基金というのがないですね。災害が起きたら市が発令する、そういうことになっていますが、この辺は災害が必ず来ますから、そういうときの備えとしていかがなものでしょうか、県民に対する思いやりとして。現に東北の方とか、集中豪雨とか、熊本とか、仮住宅へ何年かかけて、お金が当然必要です。そういうときの備えとして、行政の方で何とかできないのか。その辺をお願いしたい。

湖西市は、全くそういうものがないです、市民に対する思いやりが。職員給与を上げるそういう金を少しでも市民に対する思いやりとして積立金に回していただいたらありがたいなと私思っております。

また湖西市は、人命よりも箱物優先ですね。市民会館もそう。これはちょっとおかしいんじゃないかと思います。箱物より人命の方が大事じゃないかと思います。以上でございます。湖西市の傍聴者３です。

【傍聴者４】　湖西市梅田の傍聴者４といいます。今日は川勝知事さんが豊田佐吉の名前を出していただいてありがとうございます。

去年、首相が演説のときに、豊田佐吉が愛知で生まれたとおっしゃった、そのことを御存知ですか。豊田佐吉は愛知で生まれて、織機を始めて、その後、立派な世界一の自動織機を完成したと、そういう話がありました。日本の安倍首相が、愛知で生まれた豊田佐吉だと選挙演説したものですから、湖西にいる我々にとっては本当に残念なことですね。

だから、安倍首相にもし会いましたら、伝えてください。本当に残念です。湖西と豊田佐吉を結びつけて、我々は世界に発信したいんです。そういうことを思っておりますので、ぜひ安倍さんに伝えてほしいし、川勝知事もあちこち行きますので、豊田佐吉があって湖西があると発信していただきたいと、それをお願いします。

【川勝知事】　さすがに４人の方々、それぞれ聞くに値するお話をいただきましてありがとうございました。

最初傍聴者１さんの話、申し訳ない、知らなかったです。それですから県がやれということですから、すぐこの件について解決に向けて動きます。養豚場の臭いをどうするかというのは、つい数か月前に市長さんに直接聞きまして、それについては今一生懸命やっているわけですよ。だけど、それより深刻ですね。分かりました。これはもう非常に問題があるので、どういうふうにしたら解決できるのか、動きます。また御報告いたします。

それから、傍聴者２さん、どうもうっかりしていたというか、当然配慮すべきことについて十分に配慮がなかったということで、健常者も障害者も同じように、それから性同一性障害と言われるような方たちも、それによって苦しむことがないようにすることが必要であり、ちょっとした工夫が必要であるということであれば、どういうふうにすれば良いか、誰もが苦しむことがないように、謂れなき、持って生まれた自分の身体的な特徴について、それは１つの人間の生き方だということで、差別がされないようにして参りたいと、そういうふうに動きます。

それから、静岡県では、外に出て行く人は行けばいい、帰ってくれればいいと。帰って来られるような環境を作っておけばいいと。ですから「30 歳になったら静岡県！」というのは、その頃になると故郷の事を、御両親の事を考えたり、友達の事を考えたり、自分の将来の事を考えると。そのときに帰って来られるように情報を提供するということで、この２年余りの間に静岡県の若者が行っている 22 くらいの大学と就職協定を結んで、その大学にものすごく情報を送っているんです。

それから高校３年生全員に、パスポートを渡し、ＱＲコードを読み込めば、静岡県の情

報がぱっと分かるようにします。18 歳ぐらいになると、一度は親元を離れてみたいと思うのは自然ですよね。それを別に足を引っ張ることはないというような考えでおります。

それから、傍聴者３さん、防災ね、これはすごく大切で、案外お気づきにならないかもしれませんけれども、約 3,000 億円を 2013 年、平成 25 年から費やして、今そのうちの２分の１ぐらいきました。だから、もし何もしなかった場合には、南海トラフの巨大地震が起こった場合には、10 万人くらいの方が犠牲になると内閣府が発表したんですよ。私どもはどの県よりも先駆けて、つまり南海トラフの巨大地震の対象になるのは 10 県ぐらいありますが、我々の給料も下げて取り組んでいます。そのやり方が独特なんですよ。

宮城県は、15mのコンクリートの壁をざあっと造るとおっしゃった、政府からお金が入るからと。出来上がってくるでしょう。目の前に 15mですよ。海も何も見えない。津波が来ているかどうかも分からない。そういう物が出来上がってきて、住民の方が何だこれはと言ったときには、時既に遅しなんです。

私たちはどうしているかというと、505 キロの海岸線が静岡県にはあります。そのうち 220 キロぐらいのところに人々がお住まいになったり、産業が立地したりしているんですよ。そこの地域の方々はどういうふうにすれば良いかと考えていらっしゃるかというのを徹底的に話し合った。一番最初にまとまったのが浜松だったんですよ。浜松は 300 億円寄付する方がいて、それで御一緒に。もう 2，3 年でこれ出来ますね。

こちらはそこの灯台とか、命山を造るとか、幾つかの御提案があって、それを着実にしているんです。あるいは伊豆半島というのは 13 の市町があるんですけれども、海岸に沿って集落が幾つかあります。それを 50 くらいに分けまして、その内の 20 くらいは結論を出されました。その結論は、何と防潮壁は要らないと言うんですよ。なぜか。海とともに生きていると。これが海が見えなくなったら、お客さんが来なくなると。だから逃げる道、逃げる訓練、標識、そうした物をしっかりしてくれというようにお決めになる。あるいは掛川の方は、森の防潮堤を造ってほしいと。

そういうふうに１つ１つやっておりまして、いつ地震が来るか、地震が来ると、津波が来る可能性がある。その場合に、確度の高い情報は出せないというのが国の共通の認識なんです。ところが、出せないと言って何もしないのは良くないということになりまして、ある程度予測ができたときにどうするかというので、内閣府の方から静岡県はモデル県として選ばれまして、我々の情報に基づいて、今、国がガイドラインを作っているんですよ。我々が実は同じように作っています。

ですから傍聴者３さんの御心配は県民、あるいは日本人全体の心配でもありますが、防災に対して何もやってないというのは大変な誤解で、言ってみればこれ以上やっている県はほかにないというところなんです。だけど不安は不安としてあります。安全というのは客観的なものです。だけど安心というのは気持ちの問題ですから、いかに安全だと言われても安心じゃないと。

じゃ原発はどうかと、浜岡原発動いてないじゃないですか。動きませんよ。動かせるような状態にありません。しかし、必ず原発は廃炉になりますね。40 年ぐらいやると、だんだん老朽化してきて、耐用年数が来ます。それで今、廃炉の技術を磨けというのが私の考えですよ。ですから毎日新聞に毎日プレミアという有料のサイトがあります。そこで原発、あるいは憲法、あるいは防災、その他の問題について意見を求められて、私はこれからの静岡県は原発に依存している率が一番低い所なので、原発の廃炉の技術の最先進県になれということまで堂々と書いております。

それから、豊田佐吉が愛知県で生まれたと首相がおっしゃったことは、私、それを聞くまで知りませんでした。愛知生まれの豊田佐吉なんて言ったら、私はすぐその場で電話しますよ、私がそれを聞いていたらね。

ただ、全部のそういう情報がこっちに来ているわけじゃありません。気がついたら間違いはすぐ直す、自分が間違う場合がありますね。そのときには謝って、すぐ正しく言い直すというふうにして、過ちは改めるにしかずということだと思いますが、そういうふうに間違っている人が首相でもいるということを我々知って、湖西の存在、また湖西が生んだ英傑のそういう方について、ＰＲもこれからしていかないといけないと。

なかんずく、湖西の青年たちは全国、全世界に散らばっているわけですね。そういう青年たちにこの湖西の情報を常に情報発信して、いろんなイベントや何かを通して、うっかり知らないこともありますから、湖西の事は湖西の人が一番よく知って、かつ世界の中での湖西を知っているということが大切です。つまり相手のことも知らないといけない。その中で自分たちの地域のレベルの高さというものを誇りながら、かつできれば多くの人がこちらに来て、ここで幸せをつかむようになるというふうになればいいなというふうに思っております。

どうもそれぞれ４人の方々、御指摘いただきましてありがとうございました。